

NEWSLETTER

No.1
Vol. 42
2015.10

What's
New

座談会「大学の機能強化と地方創生」

浜松市長 鈴木 康友 × 浜松信用金庫 理事長 御室 健一郎 × 浜松医科大学長 中村 達



大学の機能強化と地方創生

浜松市、浜松信用金庫、浜松医科大学の座談会が実現しました。

テーマは、「大学の機能強化と地方創生」

これからの本学の取り組みについて、期待や要望をお伺いしました。

鈴木 康友

浜松市長



Profile

慶應義塾大学法学部を卒業。1980年4月松下政経塾に入塾(第1期生)。2000年6月に衆議院議員に初当選(2期)。2007年5月から現職(現在3期目)。三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SEN)会長。2011年12月から指定都市市長会副会長。

御室 健一郎

浜松信用金庫理事長



Profile

成蹊大学政治経済学部を卒業。1968年4月浜松信用金庫入庫。1986年5月支店長、本店営業部長、理事、専務理事を経て、2005年6月から現職。浜松商工会議所会頭。浜松市行政改革推進審議会会長。2012年11月黄綬褒章を受章。

中村 達

浜松医科大学長



Profile

慶應義塾大学医学部を卒業。1977年4月浜松医科大学附属病院助手。同大講師、助教授、教授、病院長を経て、2010年4月から現職。専門は消化器、肝胆膵(肝臓、胆道、すい臓)の外科。

司会 私は、司会を担当します浜松医科大学、山本です。よろしくお願いします。

今日は、大学の機能強化と地方創生をテーマにして皆さんのご意見をお伺いしたいと思います。

最初に、浜松医科大学の機能強化に向けた取り組みについて、中村学長から説明をお願いします。

光で「視る、診る、看る」を極め、日本・世界の医療を牽引する。光医学分野で日本・世界をリードする大学へ

中村 平成25年から3年間を、大学改革加速期間と定義づけられまして、国立大学改革プランをつくることとなっています。

その中で、今までの浜松医科大学のミッションを再定義しました。新たに加えたことは、光技術の医学応用を研究ばかりでなく、それによりイノベーション創出を目指し、また、日本のものづくりの基盤である製造業が盛んな地域特性を踏まえ、産業保健、産業看護の発展・向上を担うことなどを掲げました。

また、第3期に向けて、光医学をどういう形で教育し研究していくかということが、長年の伝統としてのテーマであり、無侵襲で、光トモグラフィーという光で乳房とか甲状腺の腫瘍を診断する、さらにトモグラフィーの機器をできるだけ実用化しようという計画を立てて申請しました。これが文部科学省に

認められて、今年日本で指折りの研究者を招きました。

以前から、光で何かをしようという大学院生、若手研究者等を募集し、教育を行っています。すでに大勢の人たちが、大学及び会社等で活躍しています。さらに進めて医学部生にもそれを取り入れようと考えています。

研究だけでなく、できるだけ実用化、事業化しようと、そのためには、産学官と金融機関まで入れて、連携が必要であろうと考えています。抜本的機能強化、光先端医学教育研究センターが、すなわち地方創生に役立つ内容であると文部科学省も認めてくれます。

さらに、がんと精神と、血管疾患の治療もテーマに掲げて取り組んでいこうと考えています。

司会 中村学長、ありがとうございます。

本学の機能強化は、もともと地域特性とこれまでの実績を活かした光医学をさらに発展させるために、医学教育研究拠点を形成するということですが、このような取り組みに対する期待や注文ということをお伺いしたいと思います。

産業政策
6つの成長分野

鈴木 注文というよりも大変期待をしています。



写真右：司会の本学学長特別補佐(広報・社会貢献担当) 山本清二

浜松は産業力でここまで発展してきたまちです。今、全国で政令指定都市が20か所ありますが、15か所は県庁所在地です。県庁所在地は、人、物、お金が最初から集まっているため、発展が約束され、非常に有利です。県庁のない都市は5か所ありますが、そのうちの3か所、川崎、堺、相模原は、東京、大阪などの巨大都市の近郊都市で、これも非常に有利な条件が整っています。県庁もない、近郊に大都市もないという中で、自力で発展して政令指定都市になったのは北九州と浜松です。

両者に共通しているのは産業都市だということです。ご承知のように北九州の場合は、明治になってから、政府の富国強兵、殖産興業の大方針のもと、鉄を生産しなくてはならないということで官営の八幡製鉄所ができて、鉄のまちとして発展してきました。しかし、浜松は、スズキ、ヤマハ、ホンダ、カワイ、浜松ホトニクスも、町工場からスタートして、それが世界的企業になって、それらに先導されるように、分厚い産業構造ができて都市が発展してきました。産業力で自立的な発展をしてきたまちなので、

目次

トピックス 1-6

- 座談会 鈴木 康友 浜松市長
- 御室 健一郎 浜松信用金庫理事長
- 中村 達 浜松医科大学長

研究最前線 7

- Kagami-Ogata syndromeの発症機序と臨床像の解明

新任職員の紹介 8-10

お知らせ 9-10

- 「お薬手帳」携帯普及啓発活動を実施

海のむこうで 11-12

- 平成26年度の海外若手脳神経外科医のための教育コースと手術支援 11
- DHoHの挑戦 12

大学ニュース 13-24

- 学会賞等受賞 13
- ヒトがんの個体感受性：病理からの分子疫学的アプローチ 14

- 認知症高齢者の痛みの研究により 日本老年看護学会優秀論文賞を受賞して 14
- 各種行事 15-16
- サークル活動の記録 17
- サークル紹介 18
- 留学生の紹介 19
- 平成27年度入学者選抜試験実施状況 20
- 国家試験合格状況 21
- 第109回医師国家試験大学別合格状況 22
- 平成26年度卒業生・修了者進路状況 23-24

卒業生は今 25-26

- やさしい診療を目指して 25
- 産業保健師として働く私の想い 26

表紙の写真

全面的な改修工事が終了し、また新たな歴史の一步を踏み出した浜松医科大学

平成27年4月撮影



将来を考えたときに、浜松から産業が消えたとすると本当に背筋がぞっとするような状況になるわけです。

これから、地方創生、地域の特性を活かして地域を活性化することですが、やはり浜松の場合、一丁目一番地は産業政策だと考えています。今までは、繊維があり、楽器があり、輸送機器がありと、うまく浜松の産業というのは成り立ってきましたが、いつまでも車やオートバイだけに頼ってはいられません。新しい産業の柱をつくっていく必要があります。そこで、今、市では6分野を成長分野として位置づけています。1つは次世代輸送用機器。これは、今の輸送機器産業の延長線上にあるもので、ガソリンとエンジンではなく、電気とモーターで走る車のイメージです。それから、浜松ホトニクスを中心とした光の

分野。次に医工連携、いわゆる、メディカルでも特に医療機器の分野ですね。また、エネルギーの分野と新農業。浜松は農業が盛んですから、6次産業化によって農業も革新させて、1つの産業として自立させようとしています。最後はデジタルコンテンツ。車は電子機器の塊なので、組み込みソフトというデジタルコンテンツが核になるわけです。

今後、医工連携は、光と深く関わっていきまして、光技術というのは、イコール、センサー技術になります。これはこれからの先端医療に欠かすことのできないもので、「産学官金」の連携の中で進めていかなければということです。まさに歩む方向というのは一緒だと思います。

具体的な取り組みは、浜松ホトニクスと浜松医科大学が中核となって進めていただき、環境整備や国との関わりというのは行政の仕事として我々が一生懸命やっていきます。ぜひ、期待をしておりますのでよろしくお願いします。

司会 期待しているという、力強いお言葉、ありがとうございます。

連携がキーワード

御室 浜松医科大学は、昭和49年に開学されて以来、地域医療に大きく貢献されてきました。今後は、地域医療、教育の枠を超えて、地域産業をどう元気にしていくのかという視点も重要な課題になっていくと考えます。我々金融機関としても地域の活性化にどう貢献していくのが今強く問われていますが、



一つには、行政とか大学、地域金融機関がしっかり連携することがキーワードになると思います。それぞれが、ばらばらに独自でやっても非常に効率が悪いので、いかに連携して一緒にやっていくのかということが私は一番大事なことだと思いますし、特に大学と、民間との共同研究の部分にはまだ少し弱い感じを受けています。すでに実績件数は少しずつ伸びていますが、産業界としても、より一層地域と大学の結びつきを強化していければ、新たな展開が広がる可能性があるはずです。

先ほど市長からお話がありましたように、光を使った新しい産業創出、これは非常に重要なことですし、ぜひ実現していきたい。もう一方では、例えば、介護とか、あるいは診療をするときに何か必要な、事務作業の面からもこの地域で、大学へ技術やシステムを供給できる仕組みができないのか。浜松ホトニクスを中心とした最先端の技術だけではなくて、介護ロボット、ロボットはかなり先端になりますけど、もう少しメカニク的な介護補助機器、こういうものをこの地域の産業として育成できればと思っています。

いずれにしても、自動車など、今まで浜松で主力になっていた産業というのは、マーケットを求めて海外への

進出が加速していて、本社機能は残っていても、雇用の受け皿は減少する懸念があります。そういう地域の変化に対して、雇用のどういう形でこの地域に生み出していくのか、行政、それから大学、我々のような民間は共通の問題意識を持つべきではないでしょうか。

司会 常々、御室理事長は、いろいろな分野の人が同じ目標に向かって連携をするということの重要性をよくお話しされていて、産学官金の中で、1つの目標に向かって力を合わせるということは確かに重要だと思います。

御室 それは、すごく重要なことで、皆さんがそれぞれの分野で一生懸命力を発揮して、行き着く先は、やはり地域のため、住民の皆さんのため、しっかり集中して進んでいくべきだと思います。

司会 そういう意味だと、キーワードは地方創生に向けてどういう取り組みをするかということになるかと思いますが、市の行政の立場から、それから産業界の立場、金融界の立場から、地方創生について少しお話しいただいて、それに対して中村学長から、どういう形で、大学と

しても協力、取り組みができるのかということをお伺いしたいと思います。

産業力強化をして、雇用を生み出す。県を越えて広域連携

鈴木 人口減少、これは避けられないわけですし、これからの何十年かは人口が減り続けていくという中でいろいろな取り組みをしていかなければと思います。

今まで、何となくこれから人口が減っていきますよという漠然とした話だったものが、昨年の増田レポートによって、特に地方自治体について衝撃的な影響が出るとされました。多くの小さな自治体は、人口減少によって自治体として存続し得ない、消滅可能性都市などと言われています。896、約半分の基礎自治体が消えてなくなりますよという、脅かしも含んでいるのですが、そこから一気に地方創生という話が出てきました。

地方創生というのは、よくよく中身を見ていきますと、結局は、危機感を持って努力しなさいということなのです。今、国から全国の自治体に対して、人口ビジョンと総合戦略策定の要請があり、我々もそれをつくっている最中です。国は、自分たちの地域の特性や資源を活用して、自分たちでアイデアを出して、自分たちで汗を

かいて頑張らなさいと言っています。これが地方創生ですね。

私は、子育て支援とか、総合戦略とかいろいろなことがありますけれども、やはり、まず産業力強化だと考えています。つまり、雇用を生み出さない限りは何を言っても始まらないわけです。結局、働き口がなければどんどん人が出ていく。出ていけばまた活力が失われて、また産業が衰退していくという悪循環になっていきます。浜松はものづくりのメッカとして第2次産業を中心に発展してきましたけれども、これからはものづくりだけでなく、多角的に、第1次産業やサービス産業も含めて産業力強化をしていかないと浜松の将来は決して安心してはいられません。そういう中であって浜松医科大学は、

本当に中核中の中核だと思います。もちろん第一義的には地域医療を守っていただくという、まさに人材を輩出していただくということですが、研究はもちろん、具体的なものをつくり出していくという部分にも大いに期待をしています。

また、地方創生は、単独の、個別の自治体が自分たちだけでやっていくというのも限界があります。例えば、愛知県東部の東三河地域、静岡県西部の遠州地域及び長野県南部の南信州地域は、生活圏、文化圏、あるいは産業面でも、非常に関わりが深く、今、三遠南信という取り組みを行っています。

浜松には静岡大学もありますけれども、少し県境を越えると豊橋技術科学大学というとてもいい大学があります。ぜひ広域連携をやっていきたいと思っ

ていますので、浜松医科大学の皆さんにも、県を少し飛び越えていろいろな取り組みをお願いします。

司会 地方創生の中で、産業力を高めてこの地域を活性化するといったときに、安全で安心して暮らせる浜松市でないといけな。健康長寿のまちではありますけど、そういう意味で浜松医科大学が果たせる役割というのはありますか。

静岡県の医療体制の充実

中村 浜松市は日本一健康長寿ですが、静岡県東部の医療はまだ不十分です。

それで、本学は、東京、神奈川からの入学者はほとんど帰ってしまうものですから、静岡県出身者を多く受け入れることを考えました。平成23年ごろから120名の定員に対して約60%の静岡県出身者が入学しています。静岡県東部の高校へも大学説明を実施しています。これから静岡県に定着する医師が、毎年80名ぐらい出てくると思います。

しかし、東部には、医師がキャリアアップできる大きな病院が、少ないのも医師定着率の低い要因となっています。

御室 なるほど。

中村 それから、浜松で大災害が起こったときに病院が機能しなくなったとき

どうするか、業務の改善・効率化も含めて本学職員が、地元企業と共同で材料部業務の作業を支援するシステムの開発を進めてきました。地元企業では、運用面での試験を重ね、医療機関への販売を目指しています。

鈴木 すばらしい。

中村 病院の中で、大学の中で困っていることを、企業の人と常にもっと寄り合って、アイデアがないか、ニーズはないか、シーズはないかというよりも、コミュニケーションをもっと密にしていけば、新たな協力、連携体制ができてくるのではないかと思います。こつこつと、浜松市、そして静岡県に貢献していければと思っています。

司会 本学の学生とか、あるいは教職員に対して、地域の皆さんはどういう人材像を期待しておられますか。

御室 学生さんは、一生懸命勉強をしてください。よく健康のために講演をしていただきますが、よりきめ細かく実施していただけると良いですね。例えば企業の中に入って、こういう健康法や病気予防法がありますよといった健康教室の開催など、工夫の余地はいっぱいあるかと思っています。

司会 産業イノベーションという観点から、何かご意見はございますか。

きめ細かく、地域に情報発信 ローテクな技術の開発も重要

御室 産業イノベーションというと、今、浜松ホトニクスが注目され、大学との研究を強力に実施していますが、もう少し広がりのある、ローテクでも対応できる医療機械、器具をつくる仕組みが何かつくれないかなと思っています。中小企業でも参画しやすい環境を

つくって浜松医科大学での研究に必要なとなるちょっとした器具とか、あるいは、医師なり患者さんが移動するための手段などそういうニーズを、地域へ発信をしていただければ、協力するところがいっぱい出てくると思います。

司会 今、御室理事長がお話しされた関係で言うと、「HAMING」(HAMamatsu Medical INnovative Group)という協同組合があります。いろいろなものづくりの技術を使って、新しい医療機器、鋼製小物を、うまく生産性を高めています。

浜松の財産「浜松医科大学」 いい人材を育てる。

鈴木 行政の立場になると医療はとても大事な分野です。浜松は非常に医療体制がしっかりしています。

先人の皆さんに感謝しているのは、ここに医大をつくっていただいたということ、浜松医科大学があるというのは、これは何物にもかえがたい大きなことです。また、医師会もかなり開明的というか、いろいろな取り組みをしているので、そういう点では非常に医療に恵まれている地域です。ぜひ、今後も浜松の財産として継承していきたいと考えていますし、そこを担う人材をどこが輩出してくるかといったら間違いなく浜松医科大学だと思います。

中村 大学側から言いますと、浜松医科大学が医師国家試験合格率日本一になったことは、自慢できることだと思います。

それで、浜松のどこの病院に行っても、本当に大変なときはいつでも駆け込み寺的に受け入れられるような技術を持っていればいいなと思っています。

司会 こういう座談会の取り組みは、今回初めてです。座談会形式、あるいは



ほかの取り組みも含めて、感想とか何か、ご提案がございましたらお願いします。

鈴木 新薬の治験については。

中村 臨床研究管理センターがあります。かなり前から、第Ⅰ相、第Ⅱ相と臨床試験を行っています。浜松市の基幹病院で「とおとうみ臨床試験ネットワーク」を形成して臨床研究の推進に取り組んでいます。厚生労働省も認めているところです。

御室 病院の経営も見るとすばらしいですね。外来の患者数の伸びとか、それから1人当たりの単価とか、付加価値がどんどん上がっています。病院経営が収益偏重になることは論外ですが、それでも健全経営を志向することは重要です。国からの交付金が減っていくわけですから、やはり自分で稼がないといけない時代になっていますね。

中村 大学経営って、お金もうけではなくて、やはりいい人材を育てて、いい教授を選考することが第一です。例えば、浜松にいない脊椎の専門家を採用しましたところ、周りの病院でも、脊椎を勉強したいという医師も増えてくるし、患者も集まってくる、そういうことがこれからの重要な仕事だろうなと思いますね。他にないものを、すぐできる人を呼ぶことですね。

司会 今日は、浜松医科大学に対して「期待していただいているな」というのがすごく伝わって、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。

ちょっと寄り道

健康長寿のひけつは？

御室 浜松の健康長寿日本一は、ギョーザとお茶と共稼ぎがすごくいいと聞きました。それって本当ですか。

鈴木 喫煙率が低いとか、高齢者の就業率が高いとか、いろいろ言われていますね。

中村 そういうこともあります。医師が多いことによって衛生知識が際立っているのではと思います。

司会 救急体制も早くから整備されていますね。

鈴木 あと、ストレスがないというのがいい。浜松は暮らしやすいですよ。長く東京に住んでいて、決して悪いところではなく通勤ラッシュもなかったのですが、東京に住んで生活していくだけでストレスをものすごく感じます。人の多さとかね。浜松はそういうところがないですよ。

御室 適度の田舎というのがいいのかな。



Kagami-Ogata syndromeの 発症機序と臨床像の解明

われわれは、長年、第14染色体父性ダイソミーおよびその関連疾患の研究を行い、その発症機序の解明と臨床像の決定に大きく貢献してきた。この成果に基づき、欧州インプリンティング疾患ネットワーク (<http://www.imprinting-disorders.eu/>) から「鏡－緒方症候群」(Kagami-Ogata syndrome)という疾患名が提唱され、その後、この疾患名は、世界最大の疾患データベースOnline Mendelian Inheritance in Man(OMIM) (<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/omim>) に#608149として登録された。これにより、日本人名が冠された疾患名が国際的に承認された。

「鏡－緒方症候群」の発症機序解明 ― ヒト第14染色体にはインプリンティング領域が存在する。このため、父性片親性ダイソミー（1対の染色体が共に父から伝達される状態）は、かつて「第14染色体父性片親性ダイソミー症候群」と称され、現在「鏡－緒方症候群」と命名された疾患を招く。われわれは、この疾患の発症機序を明らかにした(図1)。(1) このインプリンティング領域には、インプリンティングセンター(IC)として機能しうる2つのメチル化可変領域(DMR)～配偶子形成時に

樹立されるIG-DMRと受精後に樹立されるMEG3-DMR～が存在する。(2) 個体では、2つのDMRは共に父由来のときに高メチル化状態、母由来のときに低メチル化状態で存在するが、胎盤では、IG-DMRのみ個体と同様のDMRとして存在し、MEG3-DMRは親由来にかかわらず低メチル化状態で存在する。(3) IG-DMRとMEG3-DMRは、各々胎盤と個体におけるICとして機能する。(4) IG-DMRは個体におけるMEG3-DMRのメチル化パターンを制御する。(5) 第14染色体父性片親性ダイソミーと同じ症状が、母由来DMRを含む微細欠失や母由来DMRのエピ変異(高メチル化)で生じる。(6) 母性発現遺伝子RTL1asにコードされるmicroRNAは、父性発現遺伝子RTL1の発現抑制機能を有する。(7) 「鏡－緒方症候群」の表現型は、主にRTL1の過剰発現によりもたらされる。

「鏡－緒方症候群」の臨床像決定 ― 現在までに世界中で同定された53名の患者のうち、34名はわれわれが報告している。これらの患者を対象とする詳細な検討を行い、本疾患の臨床像を明らかにした。(1) 診断特異的の症状:豊かな頬と

突出した人中を呈する顔貌(乳児期から小児期を通じて全例)、胸部レントゲン上のcoat hanger angleの増加(乳児期から小児期を通じて全例)とベル型胸郭(乳児期のみ全例)(図2)。(2) 特徴的症状:腹壁異常(臍帯ヘルニアなど全例)、羊水過多(33/34)、胎盤過形成(23/27)。(3) 非特異的であるが重要な症状:出生時過体重(全例平均以上)、精神運動発達遅滞(全例)、摂食嚥下困難(31/33)。(4) その他:肝芽腫(3/34)、早期死亡(8/34)(分母は各症状について調査し得た人数)。したがって、診断特異的の症状が揃えば臨床診断は確定的であり、特徴的症状や重要な症状が認められれば、より確実である。

今後の展望 ― われわれは、図3に示す分子遺伝的診断法を提唱している。これにより、ほぼ全ての患者における遺伝子診断が可能となり、現在も新しい患者について国内外から問い合わせが来ている。このような多くの患者の集積により、RTL1asのみの欠失が「鏡－緒方症候群」を生じるか否かなど、未解明の研究課題が克服されると共に、合併症や長期予後が明らかとなることで、患者・家族のQOL改善が期待される。



小児科学講座 教授
緒方 勤

図1 第14染色体長腕のインプリンティング領域

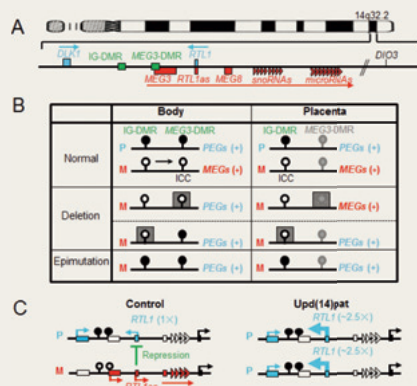


図2 診断特異的なレントゲン像。上向きの肋骨とベル型胸郭

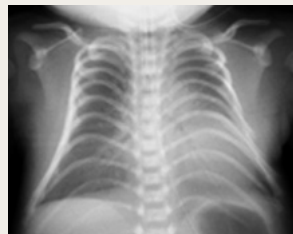
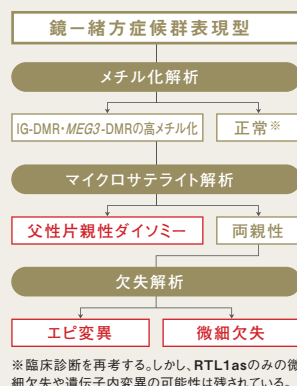


図3 解析方法



新 任 職 員 の 紹 介

New Staff Introduction



放射線腫瘍学講座 教授
中村 和正

平成27年5月1日付で、新たに設置された放射線腫瘍学講座教授を拝命いたしました中村和正と申します。出身は下関市、昭和63年九州大学卒業で、浜松で暮らすのは初めてとなります。平成10年に、ある研究で浜松医科大学放射線科に3日間ほど訪問したことがあります。たまたまその時がコバルト装置の廃棄の時で、コバルト線源の搬出を見学することができました。実はこのコバルト装置は本学附属病院の初代治療装置だそうで、今から17年前にその廃棄にたまたま立ち会っていたことに、なにか不思議なご縁を感じております。

私の専門は前立腺癌の強度変調放射線治療、肺癌に対する体幹部定位放射線治療、頭頸部癌の放射線治療などです。もともと放射線腫瘍医は、どんな疾患の放射線治療でも対応する「何でも屋」ですので、なんなりとご相談くださいと思います。今後、静岡県のがん医療の発展に少しでもお役に立てることができようがんばりたいと思います。なにとぞ指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



麻酔・蘇生学講座 教授
中島 芳樹

今年5月から本学麻酔蘇生学講座でお世話になります中島芳樹と申します。1987年に浜松医大を卒業後、初代麻酔科教授の池田和之先生の率いる麻酔科に入局し静岡県立総合病院、NTT伊豆通信病院、埼玉県立小児医療センターなどで研修後に大学に1992年に戻りました。その後筑波大学から佐藤重仁先生が麻酔科教授としてお見えになり、その縁でフランスのバリ大学に留学する機会をいただきました。2001年に大学に復帰後の医局長時代に卒後研修プログラムの導入という大変革を迎え、初期教育の重要性を感じました。2010年から静岡赤十字病院に異動し、病院

の新築に合わせて手術室の設計をする機会に恵まれ、小規模ではありましたがある程度自分の理想を具体化できたのではないかと感じておりましたが、再び大学に戻る機会をいただきました。麻酔科学は集中治療やペインクリニック、緩和医療など疼痛や鎮静に大きな関わりのある科です。私の専門は麻酔分野全般ですが、興味のある領域は心臓血管麻酔とシミュレーション教育です。研修医は無限の可能性を秘めたiPS細胞のような存在です。その意味で教育は非常に大事ですし、より良い研修ができるように全力を尽くしたいと思います。

【専門分野】生体医用光学・認知脳科学、小児神経学

平成27年4月1日にMPRC・生体医用光学研究室に着任しました。元は小児科医でしたが、新生児仮死に見られる低酸素性虚血性脳症の病態生理を研究しようと思って、北海道大学応用電気研究所(現:電子科学研究所)へ行ったところ、人生が変わってしまいました。ここで、近赤外光を用いた生体計測法(NIRS)の開発に携わることになり、さらにNIRSが脳賦活領域を検出できることに気が付き、脳機能イメージング研究を開始しました。2000年から東京都精神医学総合研究所(現:東京都医学総合研究所)で、fMRIやMEG

も用いて研究を行い、同時にNIRSの基礎研究を行ってきました。これまで認知脳科学屋(感情の神経機構解明)と光計測技術開発屋(拡散光トモグラフィ開発)という二つの顔を持ち、TPOに応じて表と裏の顔を使い分けてきましたが、今後は後者を表の顔にしたいと思っています。浜松駅のすぐ近くに住んでいてバス通勤のため、極度の運動不足に悩まされています。そこで、スカートにウォーキングシューズという姿で、夕方大学の周辺を歩き回っていますが、決して怪しい者ではありませんのでご心配には及びません。今後ともよろしくお願い申し上げます。



メディカルフォトニクス研究センター
生体医用光学研究室 教授
星 詳子

New Staff Introduction



臨床看護学講座 教授
武田 江里子

【専門分野】助産学／母子看護学

平成27年4月1日付で臨床看護学講座(助産学・母子看護学)の教授を拝命致しました。浜松医科大学には平成21年4月に着任し、助産学専攻科での助産師教育に携わってまいりました。本学の助産師教育はこの4月から専攻科1年コースから大学院修士課程2年コースとなり、ますます充実したカリキュラムとなっております。高度実践力、研究力、マネジメント力、教育力・指導力を強化し、将来指導的役割を担える助産師の養成を目指し、皆で力を合わせて頑張っております。エビデンスに基づいた知識と技術、五感を生かした助産師としての感性、コミュニケーション

能力等、助産力を高め、対象に寄り添うことのできる助産師を育てていきたいと思っています。

研究は子育て支援につなげることを目的として行ってまいりました。母親の養育者としての発達やSAT法(構造化連想法)を用いた介入に関する研究を進めており、女性や母子、家族が大変だけど楽しく子育てができるような支援の構築を目指しております。

これからの助産師教育、ならびに子育て支援に少しでも役立っていけるよう努力していきたいと思っております。今後ともご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



産学官共同研究センター
准教授
小野寺 雄一郎

このたび、産学官共同研究センターの准教授を拝命しました小野寺雄一郎と申します。平成20年から本学知財活用推進本部知財活用コーディネータとして、知財の管理・運用から産学連携支援、そして外部研究資金の獲得支援等に努めて参りました。

私は、北海道大学大学院を経て大学で研究しておりました。転身のきっかけは、研究室の教授と札幌医大の知財管理室長の繋がりで、札幌医大における研究の特許調査を担当した中で、最先端の研究をヒアリングできること、そして先生方に対して知財という側面から支援ができることに価値を感じた事です。

産学官共同研究センターは平成23年4月に開設し、「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」の事務局を併置して、産学連携のワンストップ窓口として機能しております。また、大型イメージング装置(CT、MRI、PET等)の管理、共用促進も行っております。企業等からの技術相談数も増加し、実用化事例も増えてきております。

コーディネータは黒子で、研究者が良い環境で研究できるよう陰で支えるのが役目です。本学の産学官連携がより促進するようこれまでの経験を活かして業務に取り組んで参りますのでよろしくお願い申し上げます。



臨床看護学講座 准教授
菅野 久美

【専門分野】がん看護・クリティカルケア看護

平成27年4月1日付けで、臨床看護学講座に着任いたしました。

私の出身は、福島県福島市です。東日本大震災後は多くの問題が生じていますが、浜松市同様に豊かな自然とともに音楽にあふれる街でもあり、ここで学生時代を過ごしました。その後、クリティカルケア・がん看護の領域で臨床看護師として経験し、福島県立医科大学・岡山大学・千葉大学において研鑽を積んでいます。現在、生体侵襲のある治療を受けるがん患者の心身緊張に注目し、看護実践の具現化を目指したモデル構築をテーマに研究を行っています。これは、看護の基本である「生命を

守り、その人の希望する生活を支えること」から、対象をホリスティックに捉え、心身とともに環境や社会との調和に向かう生活支援(再構築)を目指した実践研究です。そのためでしょうか…「音楽にある調和」と丁寧な「ものづくり」の浜松の地へとたどり着いた意味があるように感じているところです。

本学においても、がん看護領域での実践的研究を継続して行うとともに、大学院での急性・重症患者看護(クリティカルケア看護)専門看護師の教育にも携わらせていただきます。皆様からのご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



臨床看護学講座 准教授
倉田 貞美

【専門分野】臨床看護学老年看護学

2015年6月23日に沖縄糸満市で営まれた「沖縄全戦没者追悼式」で沖縄県立与勝高校3年の知念捷(ちねんまさる)さんが、朗読した自作の詩「みくる世がやゆら」を新聞で知り、私は忘れることができない。「みくる世がやゆら」とは沖縄独特の琉歌で使われている言葉で「未来は平和でしょうか」という意味だと紹介されていた(2015年6月24日毎日新聞29面)。

捷さんは、幼いころから自分を孫のように愛してくれた祖父の姉が、90歳を超え、認知症を患い、折れ曲がった体でベッドに横臥して何十回何百回と戦争で夫を失った妻の歌「軍人節」を口ずさみ涙する姿を、22歳の夫を戦争で失った彼女の記憶を、彼女

の哀しみを忘れてはならないと詩にした。認知症になってすべての記憶が漆黒の闇へと消えていくのに抗うかのように繰り返される途切れ途切れの歌声に、次世代を担う自分達が「みくる世」の平和を、その素晴らしさを未来へと繋ぐねばならないと朗読した。

認知症高齢者の尊厳を守るのが看護師の重大な役割と言葉でいうだけの軽薄さに陥らないように、戒められた思いだ。長い時間を生き抜き、衰えた身を横たえようとする高齢者が安らかに生きられる世にこそ、もしかしたら平和があるのかもしれない。介護される側に近づきつつある自分であるが、老年看護学を学生に伝えることのできるこの仕事とその時間をあたえられたことに感謝し、大切にしたいと今改めて思う。

「お薬手帳」携帯普及啓発活動を実施

「お薬手帳」は、患者の情報(服用履歴により必要とする薬の特定や、既往症、アレルギーなど)を、医療関係者に迅速に提供し、疾患等に対する適切な治療を開始するための重要なツールとなります。

災害時のみならず、日常における複数の医療機関受診時に持参することにより薬の副作用や危険を回避することができます。

平成27年8月20日(木)、浜松医科大学医学部附属病院にて、はままつ福市長「家康くん」を招いて「お薬手帳」の配布及びPR活動を実施しました。

病院を訪れた人々に、「お薬手帳」の重要な役割を説明し、恒常的に携帯することを呼びかけました。



平成26年度の海外若手 脳神経外科医のための 教育コースと手術支援



脳神経外科学講座
助教 鮫島 哲朗

若手脳神経外科医のための手術手技コースと題して、ご遺体を用いた手術アプローチの研修コース(カダバーコース)が全国の大学病院で開催されています。国内では、主に杏林大学、愛知医科大学、愛媛大学等で毎年講師として携わらせていただいておりますが、海外でも、同様なコースと手術支援に招かれており(平成26年度は中国、ロシア、タイ、ネパール、イギリスなど)、そのいくつかを写真と共に紹介したいと思います。



蘇州第二大学病院での手術(左が筆者)／中国



フェデラルセンター手術室内／ロシア



バトブル医科大学医学部生達と(左から3番目が筆者)／ネパール

1. 2014年9月 南京市東南大学、蘇州市蘇州第二大学病院(中国)

中国は近年のめざましい経済発展のために、大規模病院が多くなり、施設も年々充実しています。一病院あたりの年間手術数(脳神経外科のみ)は2000~6000例にもなります(浜松医大脳神経外科350例前後)。ですが、医療レベルはまだまだ発展途上中であり、彼らもそれを強く認識し、医療先進国に少しでも追いつきたいと若い先生方は必死で勉強しており、たくさんの脳神経外科医が日本を含め海外に勉強に来ています。医師一人あたりの症例数は、圧倒的に中国の方が多いわけですから、近い将来追い越されるかもしれません。



◀東南大学でのカダバーコース



▼南京市東南大学病院

2. 2014年10月 フェデラルセンター、チュメニ市(ロシア)

ロシアのシベリアの玄関口、チュメニ市は、10月ですでに氷点下5~19度にもなり雪が降り始めていました。ここにロシア第二の脳神経外科専門病院であるフェデラルセンターがあります。写真の様にとても

カラフルな建物で、手術室内の医療機器も充実しており、そのほとんどがアメリカやドイツの大手メーカーの製品で以前の共産国としての面影は全くありません。中国と同様、手術症例も多く、毎日沢山の手術が行われています。また病院の地下には研修医用の立派なカダバー専用の部屋が用意しており、彼らの手術解剖の理解に大きく貢献しています。



左)フェデラルセンター長より感謝のメダルを頂きました 上)フェデラルセンター 中)カダバー専用ルーム 下)カダバーコースでのデモンストレーション(中央が筆者)

3. 2015年2月 バトブル医科大学、チトワン市(ネパール)

バンコク経由でネパールの首都カトマンズに入り、そこからバスで5時間ほど内陸部に走ったチトワン市にあるバトブル医科大学での講演とカダバーコースに招待されました。建物のほとんどは写真の様な煉瓦作りであり、しかも鉄筋がほとんど入っていなかったため、4月25日の地震では大きな被害を被ったとの連絡がありま

した。経済的にも非常に厳しく、教育環境、医療環境(特に医療機器)も同様、厳しい状況にあります。そんな中でも医学部生は国内ではエリート中のエリートであり、とても優秀かつ勤勉です。彼らと話をすると少しでも世界に追いつきたいとの強い気持ちが伝わってきます。実際、すでに日本の医師免許を取得し、日本の脳神経外科専門医にトライしている医師もいます。今回の震災で大きな被害を受け、少し後退した部分もあるかもしれませんが、国の将来を担い、彼らが世界に出てくるのは間違い無いと思います。



カダバーコースにて(中央が筆者)▶



バトブル医科大学附属病院▼

以上、平成26年度に海外で行った若手脳神経外科医のための手術手技教育コースと手術支援について、3カ国をピックアップしてご紹介いたしました。今年度もイギリスを始め、中国、タイ、パキスタン、カンボジア、ミャンマー、バングラデシュなどで同様の支援をしていきますので、機会があればご紹介していきたいと思います。

海のむこうで

Beyond the Seas

DHoH[※]の挑戦



医学部医学科4年
服部 矩繁

※Deaf / Hard of Hearing 聴覚障害者

Workshopです。緊急事態が起こった際、いかにして聴覚障害を持つ医者が医療行為に携わるかということを説明していました。心臓マッサージ・酸素吸入・心拍や血圧の監視・薬剤注入などを、手話通訳者を介して指示することでスタッフとコミュニケーションを図り、また役割分担や位置決めなどを事細かに決めることで、聴覚障害を持つ医者の医療への参入を可能にしました。もう一つはAudiology Assistive Tech Demosでは聴覚障害者の聞こえの向上の研究について説明していました。アメリカでは人工内耳が主流であり、人工内耳をベースにした様々な技術開発が進んでいました。ともに日本では考えられないような素晴らしい内容であり、大変刺激的なものでした。



Audiology Assistive Tech Demosで心拍数を再現するマネキンで聴覚障害者用の聴診器を試す機会を設けていました。

僕はAMPHLに参加して、アメリカと日本の天と地ほどの差を痛感しました。日本にも「聴覚障害を持つ医療従事者の会」はありますが、医療従事者のみとといった閉鎖的な集会を行っています。アメリカのように医療従事者だけでなく手話通訳者・テクノロジー・法律などの分野を取り込み、あらゆる角度から聴覚障害に関する医療問題に当たり、様々な分野の人々と連携し合い、幅広いネットワークを形成して、聴覚障害に関する医療を全体的に向上させるべきであると僕は考えます。

百聞は一見にしかず。AMPHLに参加して、僕は全てがはるかに進歩しているアメリカの様子を肌身で感じました。この貴重な経験が無駄にすることなく、多くの人に伝えて、日本の聴覚障害に関する医療の進歩に貢献したいと考えています。

最後にこのような機会を設けてくださったミシガン大学のザゾヴ先生、様々な手配をしてくださったミシガン大学の本原さん、財政面で尽力してくださったミシガン大学のマイク・フェターズ先生、そしてAMPHLの参加のきっかけとなった浜松医科大学の小出副学長、その他諸々への多大なる感謝の意を述べます。

僕は耳が聞こえません。補聴器を装着しているものの完璧に聴力をカバーすることはできません。僕が医学部に入ろうとした動機は幾つかありますが、そのうち医師活動を通じて聴覚障害者が働きやすい社会環境づくりに貢献したいという気持ちもありました。しかし、医者としてどのようにしてアプローチするかを考えていた中、思いもよらぬ契機が訪れました。それは今年の5月にミシガン大学で開催された”AMPHL”というアメリカの「聴覚障害を持つ医療従事者の協会」への参加です。

AMPHLとはAssociation of Medical Professional with Hearing Lossの略称であり、聴覚障害を持つ医療分野の専門家や就職希望者のための情報提供、相談や支援活動の推進、さらにネットワークづくりを行う組織です。会は2年に一度開催され、今年で7回目です。学会は、医療の現場、学生・テクノロジー・法律、医療手話通訳と3つのカテゴリーに分けられており、全部で15以上の学会が開かれていました。

僕はAMPHLが強く薦める二つのセッションを受けました。一つはCode Blue



Code Blue Workshopの様子です。マネキンを用いて実際の状況を再現していました。



AMPHLに招待してくださったザゾヴ先生と一緒に

PRIZE WINNERS

学会賞等受賞

賞の名称	受賞年月日	受賞者	受賞内容(研究題目)
第67回 日本産科婦人科学会学術講演会 優秀演題賞	平成27年 4月11日	産科婦人科 医員 幸村 友季子	胎生期低栄養環境に引き続く出生後の著しいcatch up growth が成長後のメタボリックシンドロームの発症リスクに及ぼす影響—小胞体ストレスとの関わり—
第115回 日本外科学会 定期学術集会 優秀演題	平成27年 4月16日	医生理学講座 助教 田中 宏樹	腹部大動脈瘤外膜の脂肪細胞が病態に及ぼす影響
第44回 日本脊椎脊髓病学会 学術集会 Outstanding English Poster Award	平成27年 4月16日	整形外科 助教 小林 祥	Clinical and Radiographic risk factor for knee-spine syndrome in 535 elderly volunteers
第79回 日本循環器学会総会 Circulation Journal Award	平成27年 4月25日	第3内科 メディカルアシスタント 熊澤 あず美	Microtubule Disorganization Affects the Mitochondrial Permeability Transition Pore in Cardiac Myocytes
第104回 日本病理学会総会 平成27年度日本病理学賞	平成27年 4月30日	腫瘍病理学講座 教授 梶村 春彦	ヒトがんの個体感受性：病理からの分子疫学的アプローチ
日本顕微鏡学会 学会賞 (瀬藤賞)	平成27年 5月14日	解剖学講座 (細胞生物学分野) 教授 瀬藤 光利	質量顕微鏡の開発と応用
第32回 日本TDM学会 「国際TDM会議」派遣賞 (海老原賞)	平成27年 5月23日	薬剤部 副薬剤部長 内藤 隆文	Impact of CYP3A5 and ABCB1 genetic variants on blood exposure of and clinical responses to tacrolimus in patients with rheumatoid arthritis
第64回 日本アレルギー学会 学術大会 English Session Best Presentation Award	平成27年 5月27日	皮膚科学講座 助教 龍野 一樹	TSLP directly interacts with TSLPR expressing Th2 cells to promote increased IL-4 production in AD
平成27年度 日本消化器がん 検診学会 学術奨励賞	平成27年 6月5日	臨床研究管理センター 病院教授 古田 隆久	浜松医科大学における「ピロリ菌・胃がんリスク 検診外来」における胃がん予防への取り組み
日本老年看護学会 第20回 学術集会 優秀論文賞	平成27年 6月14日	地域看護学講座 教授 鈴木 みずえ	認知症高齢者における疼痛の有症率と疼痛が認知症の行動・心理症状 (BPSD) に及ぼす影響
第129回 関東連合 産科婦人科学会総会・学術集会 若手優秀演題賞	平成27年 6月20日	産科婦人科 医員 熊澤 理紗	もやもや病既往により右大脳半球に広範な陳旧性脳梗塞を認めた妊婦の1例
医療薬学フォーラム2015／ 第23回 クリニカルファーマシー シンポジウム 優秀ポスター賞	平成27年 7月4日・5日	医療情報部 部長・教授 木村 通男 薬剤部 部長・教授 川上 純一 薬剤部 副薬剤部長 堀 雄史	医療情報データベースを活用した副作用としての急性腎不全の検出に関する研究 ※名古屋市立大学との共同研究
第37回 日本光医学・光生物学会賞	平成27年 7月18日	皮膚科学講座 教授 戸倉 新樹	光医学・光生物学の研究において、長年の業績・貢献をたたえる賞
第47回 日本医学教育学会大会 優秀演題賞	平成27年 7月25日	医学科 2年生 横田 菜々子 鈴木 達也 鷺見 健翔	教育での意識変革による研究医増加への模索
		医学科 2年生 山本 実果 宇多 祐介 川口 琴子	論文作成に関する正しい知識の習得及びピアレビューの導入が学生レポートに及ぼす影響

平成27年度 日本病理学賞受賞

ヒトがんの個体感受性：病理からの分子疫学的アプローチ

腫瘍病理学講座
教授 **梶村 春彦**

私はNIH(米国国立衛生<保健>研究所)から帰国後、すぐに浜松に赴任したが、ラボのセットアップというのがわたしの任務であった。喜納勇教授は当時いまの私の年齢くらいで、そろそろ宿題報告をという状況下で、そのための番頭を呼び寄せたというわけである。日本病理学会はすでに104回も開催しているのだが、毎年2-3人の学会員に1時間くらいの講演時間でライフワークを話す機会を与える。たいていは定年間近の教授が自分の研究の歴史から説き起こし、教室員を総動員し、発表の後も長々と謝辞がならび、そして、さらに仙人のような感じの名誉教授が、目頭を押さえながらコメントするというのが定番であった。

推薦してやるから、悪口ばかり言っていないでいい加減に応募したらどうかと

3年前に薦められた。喜納教授はさぞ無念だったろうなとも思い出すようになり、応募した。そんなに長いものではなく、提出する論文も10本くらいあるいはもっと少なかったと思う。競争率は3-4倍なのだが見事落選し、あとで聞いたら、「お前の話はわかりにくいんだよ」と言われた。二度目もあり変えずに出したのだが、今度は選考委員のかたも目が慣れてきたらしく発表をする機会を得た。

「君 ねえ、Common cancer(遺伝性腫瘍ではない普通のがん)の遺伝的感受性というのは、重要なテーマだと思うけどアプローチは非常にむずかしいよ」身振りをまじえて強く言われたのは瀬藤教授の師匠の当時東大

の解剖学の廣川教授である。現に、今回も発表は終えたのだが、わかりにくいと散々な反応であった。「いやあ大河小説を聞くようだった」とも言われた(まあポジティブに考えよう)。環境要因による発癌研究の歴史と現在のポストゲノム時代の技術を使って、ヒト発癌についてももっとわかりやすい話ができるように残された研究生生活を過ごしたいと思う。



日本老年看護学会優秀論文賞受賞

認知症高齢者の痛みの研究により
日本老年看護学会優秀論文賞を受賞して

地域看護学講座
教授 **鈴木 みずえ**

高齢者は加齢に伴う骨粗鬆症や変形性膝関節症などに関連した痛みを抱えています。認知症高齢者は、痛みに対して全く訴えなかったり、反対に過剰に訴える場合があります。これには認知機能の低下に伴って痛みを痛みとして認識できなかったり、記憶できないことから痛みを言語的に表現できにくくなることも影響しています。認知症高齢者をケアする看護師は、認知症高齢者は痛みを感じない、あるいは痛みを訴えても認知症の症状の一部と考えており、十分に対応していない現状にあります。

本研究では観察法による日本語版アビー痛みスケール(APS-J)を用いて、セルフレポートで回答不明の人も痛みのある可能性が高く、認知症高齢者の痛みが認知症の行動・心理症状(BPSD)を

促進していることが明らかになりました。認知症高齢者の痛み適切に対処する重要性を改めて認識する大変貴重な機会になったとともに、看護師の認知症高齢者のアセスメント・対処能力の開発など次の研究テーマも明らかになりました。今年度の学会は、受賞の上に恩師の山幡信子先生が名誉会員になられ、喜びが2倍、3倍にもなりました。今回の経験をもとに大学院生、学部学生など後輩の指導・育成にますます励んでいきたいと堅く決心致しました。

本研究の共同研究者の東京大学山本則子先生・高井ゆかり先生、遠江病院理事長大城一先生などのご指導を頂きました先生方に深くお礼申し上げます。看護研究では実践の皆様のご協力がなければ遂行することができません。遠江

病院松井由美看護師長をはじめ臨床看護師の皆様にも大変ご協力を賜りましたこと、深謝いたします。そして、いつも私を支えてくださる本学の教職員の皆様、大学院生・修了生、学部生・卒業生などをはじめ多くの皆様のご指導・ご協力に感謝申し上げます。



授賞式後、恩師の山幡信子先生と一緒に

3月

3月2日(月)
国際交流
のつどい

日ごろからご支援いただいている国際交流事業関係者や地域住民の方々をお招きして、教職員、外国人留学生・研究者と共に親睦会を行いました。



3月6日(金) 浜松医科学シンポジウム

多目的ホールにおいて第15回浜松医科学シンポジウムが行われ、学内若手研究者・技術職員が、ポスターセッションで研究成果を発表しました。

3月12日(木) 入学者選抜試験

平成27年度浜松医科大学入学者選抜試験(後期日程)を実施しました。

3月16日(月)

学位記・修了証書授与式

平成26年度学位記・修了証書授与式を行い、医学部170名(医学科105名、看護学科65名)、大学院医学系研究科博士課程18名、修士課程13名および論文博士5名に学位記、助産学専攻科16名に修了証書を授与しました。



3月27日(金) 永年勤続者表彰式

永年勤続表彰式が行われ、永年にわたり医療並びに本学の教育に貢献された19名の方々に表彰状と記念品を授与しました。



平成27年度
4月

4月2日(木)～11日(土)
新入生オリエンテーション

新入生オリエンテーション(ガイダンス、健康診断、合宿研修、情報リテラシー、福祉施設体験学習など)を実施しました。



4月6日(月) 入学式

平成27年度入学式が行われ、医学部190名(医学科115名、医学科第2年次編入学5名、看護学科60名、看護学科第3年次編入学10名)、大学院医学系研究科博士課程34名および修士課程16名が入学しました。

4月10日(金)

Student Doctor称号付与式

医学科5年次生119名に「Student Doctor」の称号を付与しました。



5月

5月15日(金)～16日(土)

滋賀医科大学との交流会

滋賀医科大学との第40回交流会が、滋賀医科大学を当番校として行われました。本学は16種目中3勝11敗2引き分けで、通算成績は、14勝20敗6引き分けとなりました。



5月14日(木) FD講演会

FD(Faculty Development:授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み)活動の一環として、感染症学講座ウイルス学・寄生虫学分野 鈴木 哲朗教授による「バイオリスク管理の考え方と実験室におけるバイオセーフティ対策」と題した講演を行いました。

5月16日(土)～7月12日(日)

東海地区国立大学
体育大会

8大学による第64回東海地区国立大学体育大会(主管校:名古屋工業大学)が行われました。

■総合成績 男子7位、女子6位
優勝:空手道(女子)
2位:準硬式野球、サッカー、弓道(女子)
3位:硬式テニス(女子)、弓道(男子)

6月

6月5日(金) 開学記念行事

6月7日の開学記念日にあわせて、開学記念行事を行いました。中村学長による挨拶の後、東京大学大学院医学系研究科機能生物学専攻システム薬理学教室 上田泰己教授による特別講演『全身・全脳透明化の先に見えてくるもの:生命の「時間」の理解に向けて』が行われました。また、名誉教授称号授与式、感謝状贈呈式を行いました。

■名誉教授称号授与者
佐藤重仁氏(前麻酔・蘇生学講座 教授) 大西一功氏(前腫瘍センター 教授)
■感謝状贈呈者
本郷輝明氏(学生の早期臨床体験学習に尽力) 病院ボランティア(3名)



6月8日(月) 知財セミナー

特許の基礎知識や、医学研究におけるラポノートの重要性と書き方、活用術について、職員を対象にセミナーを開催しました。



6月10日(水)

院内マジックショー

学生奇術部による院内マジックショーが行われ、患者さんとそのご家族の歓声や拍手で盛り上がりしました。

6月8日(月)～19日(金)

授業開放

県内の高校生を対象に、平成27年度専門基礎科目等授業開放を実施しました。(参加者延べ344名)

6月15日(月)～22日(月)

院内写真展

学生写真部による院内写真展を附属病院渡り廊下にて開催しました。

6月25日(木) 環境整備

構内草刈りを行い、体育系・文化系サークルから182名の学生が参加しました。



7月

7月6日(月)
サイエンスの
つどい

「医大生のためのすぐに役立つ新聞活用法～『紙の新聞』から世の中の動きを知ろう」をテーマに、静岡新聞社読者プロモーション局企画管理部 鈴木正美氏を講師に迎え、サイエンスのつどいを附属図書館で開催しました。

7月10日(金)

浜松医科学シンポジウム

第16回浜松医科学シンポジウムが行われ、学内研究プロジェクト採択者が研究成果を発表しました。また、第15回浜松医科学シンポジウム優秀研究賞表彰式を行いました。

7月17日(金) 病院サマーコンサート

学生管弦楽団によるコンサートが行われ、患者さんやご家族などが来場しました。

7月18日(土)～

8月1日(土)
公開講座
(7/18、7/25、8/1)

「続・健康のために知っておきたい話」をテーマに、第37回公開講座を開催しました。県内外から131名、延べ345名の方が受講しました。



7月24日(金)～8月17日(月)

富士山衛生センターの診療補助

富士山8合目に夏季期間中開設される、富士山衛生センターの診療補助者として、医学科3年生 津崎江美さん ほかに6名が従事しました。

7月29日(水) 高校生1日ナース体験

市内の高校生30人が「1日ナース体験事業」に参加しました。高校生は看護師のユニフォームに着替え入院患者の食事、着替えの介助などを行いました。

8月

8月3日(月)

こころざし
育成セミナー

医学部進学を目指す県内の高校1・2年生約100名が「こころざし育成セミナー」に参加しました。今野病院長のあいさつの後、本学の3名の講師が、仕事の内容や医療の現状について説明しました。

8月4日(火)・6日(木) オープンキャンパス

医学科と看護学科のオープンキャンパス(大学説明会)を行いました。全国から延べ668人の高校生が参加し、カリキュラムの特徴、入学者選抜方法の説明、模擬授業、在学生・卒業生の講演、個別相談などを行いました。



8月8日(土)～8月19日(水)

西日本医科学生
総合体育大会

第67回西日本医科学生総合体育大会(代表主管校:大阪市立大学医学部)が行われ、44大学が参加し、本校が総合優勝を果たしました。



8月18日(火)・25日(火) 高大連携実習プロジェクト

「臓器透明化による血管立体走行の観察」



静岡県立磐田南高等学校理数科2年生の5名が高大連携の実習プロジェクトに参加しました。高校生たちは、模擬授業や施設見学、再生・感染病理学講座で行われる各種の実験に参加しました。

9月

9月3日(木) 学長選考会議



任期満了に伴う次期学長選考会議を行い、今野病院長(副学長)が次期学長候補者に選出されました。任期は平成28年4月から6年間の予定です。

9月28日(月) 学位記授与式

大学院医学系研究科博士課程4名に学位記を授与しました。

サークル活動の記録

平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

男子硬式庭球部	●東海学生リーグ第4部 5位 ●医大祭がらくた市での収益金寄付 ーインド福祉協会、静岡新聞社の都市訪問
女子硬式庭球部	●東海地区国立大学体育大会 3位 ●東海医歯薬学生大会 優勝 ●西日本コメディカル 準優勝
ソフトテニス部	●東海医歯薬学生大会 ベスト16
男子バスケットボール部	●東海医歯薬学生バスケットボール大会 ベスト4 ●近畿中国四国大会 5位
男子バレーボール部	●西日本医科学生総合体育大会 ベスト16 ●東海医歯薬学生大会 ベスト4 ●全日本医歯薬学生大会 ベスト16 ●東海リーグ 3位
女子バレーボール部	●近畿医歯薬学生大会 ベスト4 ●近畿医療系大会 ベスト8
バドミントン部	●春季静岡県大学バドミントン大会選手権大会 女子1部 優勝 ●東海地区国立大学体育大会 女子 3位 ●西日本コメディカル 女子シングルス 優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 男子団体 ベスト8 ●秋季静岡県大学バドミントン選手権大会 男子1部 4位 女子1部 準優勝 ●東海医歯薬科学生バドミントン大会 男子シングルス 3位、ダブルス準優勝 女子シングルス 3位、ダブルス準優勝
ラグビー部	●東海北陸医歯薬系ラグビーフットボール大会 準優勝
サッカー部	●春季東海医歯薬学生大会 優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 ベスト16 ●秋季東海医歯薬学生大会 準優勝
剣道部	●中部医歯薬学生大会 男子団体 3位、男子個人 3位 女子団体 準優勝、女子個人 3位 ●西日本コメディカル大会 女子個人 3位 ●永峰杯 女子団体 優勝 ●市民スポーツ祭 女子団体 3位 ●若獅子杯 男子団体 優勝、男子個人 優勝、準優勝 女子団体 優勝 ●関東医療系剣道大会 女子個人 準優勝
空手道部	●東海地区国立大学体育大会 女子優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 男子団体 決勝トーナメント進出 女子団体 優勝、女子個人 2位、4位 ●西日本コメディカル大会 女子団体 優勝、女子個人 優勝 ●浜松市民スポーツ祭 男子個人 優勝
ヨット部	●西日本医科学生総合体育大会 470級 4位、スナイプ級 7位 ●西日本コメディカルレース 470級 4位、スナイプ級 6位 ●小春レース 470級 1位、スナイプ級 1位
漕艇部	●朝日レガッタ 男子ダブルスカル 準決勝進出 ●中部学生選手権 新人クオドルプル 準決勝進出 女子クオドルプル 準優勝 ●近畿医科学生漕艇選手権大会 新人クオドルプル 優勝 男子ダブルスカル 優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 新人クオドルプル 優勝 男子ダブルスカル 3位 女子クオドルプル 4位
ゴルフ部	●西日本医科学生総合体育大会 男子団体 17位 女子個人 6位 ●春季医歯薬オープン戦 団体 21位、個人 30位
弓道部	●中部ブロック医科学生弓道大会 男子団体 優勝、個人 3位、4位、5位 女子個人 2位、5位 ●東海地区国立大学体育大会 男子団体 優勝 女子団体 優勝、個人 3位 ●静岡県下学生弓道選手権夏季大会 男子団体A 準優勝、個人 優勝 女子団体A 優勝、個人 準優勝、5位 ●西日本医科学生総合体育大会 男子団体 準優勝 女子個人 優勝、女子最優秀射技賞

弓道部	●全日本医科学生体育大会王座決定戦 団体優勝、個人3位、最的中賞 ●東海医歯薬科学生弓道大会 男子 団体 準優勝、個人 優勝、準優勝、3位、最優秀射技賞 女子 団体 準優勝、女子個人 3位 ●静岡県下学生弓道選手権春季大会 男子 団体G 3位、個人 準優勝 女子 個人 準優勝、5位
陸上競技部	●東海地区国立大学陸上競技大会 男子 200m 準優勝、ハンマー投げ 優勝 ●関西医科学生対抗陸上競技選手権大会 男子 400mハードル 準優勝、砲丸投げ 準優勝 女子 走り高跳び 準優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 男子 400mハードル 3位、男子砲丸投げ 3位、 ハンマー投げ 優勝 女子 ハンマー投げ 準優勝、女子やり投げ 2位、 フィールド部門 3位 ●全日本医歯薬獣医学対抗陸上選手権大会 男子 110mハードル 3位、400mハードル 3位、 ハンマー投げ 優勝 女子 走り高跳び 2位、走り高跳び 3位、円盤投げ 3位 ●関西医歯薬科学生対抗陸上競技会 男子 110mハードル 優勝、400mハードル 優勝、 砲丸投げ 準優勝
卓球部	●西日本医科学生総合体育大会 男子 団体戦 ベスト3、個人戦シングルス ベスト8、ベスト16
四ツ葉	●天竜厚生会清明祭での学習支援ボランティア ●浜松筋ジストロフィーの会への参加 ●自閉症の患者さんと家族から成り立つ「はばたくあひるの会」との交流 ●車イスの方の会「集まる会」との交流、車イス介助 ●天竜病院児童精神科でのボランティア ●本学附属病院小児科主催の糖尿病サマーキャンプ参加 ●浜松市「青少年の表彰」善行賞受賞 ●浜松医科大学学生表彰
軽音部	●学食ライブ(年3回) ●医大祭ステージ演奏 ●東日本医療系大生による音楽祭出場 ●静岡県西部7大学合同イベント「NACH2015」出演
管弦楽団	●第34回定期演奏会(アクトシティー 中ホール) ●本学附属病院、浜松赤十字病院及び遠州病院でのサマーコンサート 及びクリスマスコンサート ●本学入式、学位記授与式、解剖体慰霊祭における演奏 ●医大祭での演奏会
写真部	●医大祭写真展示 ●本学附属病院写真展示
奇術部	●本学附属病院マジックショー ●本学宿舎における七夕祭マジックショー ●浜松科学館イベント(マジックショー) ●福祉施設(デイサービス等)でのマジックショー ●医大祭ミニマジックショー、イリュージョン発表 ●浜松市「青少年の表彰」善行奨励賞受賞
つながり	●若宮保育園、みどり保育園にて保健指導を実施 テーマ「食育」、「からだのしくみ」、「病気にならないしくみ」 ●医大祭で子どもたちに「お医者さん体験」をしてもらい模擬診察を実施 ●浜名湖ガーデンパーク「こどもの町ミニはままつ」に参加 子ども達が医師・看護師の体験をするブース出展 ●ゆずりは学園にて「男女間のあり方」の授業を実施 ●西遠女子学園にて「女性の身体について」の授業を実施
囲碁将棋部	●秋季中部個人戦 準優勝 ●中部新人王戦 優勝
HOPE	●留学生(HOPE、提携校)の受け入れ ●スウェーデン・アメリカ留学 ●インドネシア医療研修 ●シンガポールからの高校生との会談 ●国際交流のついで司会
うなぎの会	●全国医学生ゼミナール参加 ●ポスト医ゼミン浜松開催 ●被災地訪問会開催
災害支援サークル Luce	●福島県被災地訪問 南相馬・小高福島地区でボランティア活動 石巻赤十字病院 ●福島医大ボランティアサークルwillとの放射線セミナー ●本学附属病院防災訓練参加 ●復光キャンドルナイト参加 ●四国DMAS、徳島大homeとの合同ワークショップ ●浜松市「青少年の表彰」善行賞受賞

ソフトテニス部

Soft Tennis

設立

1974年設立

部員数

38名

活動日程

週3回(火・金・土)



“和”

こんにちは、浜松医科大学ソフトテニス部です。私たちソフトテニス部は男女混合で週3回、火曜日、金曜日、土曜日に活動しています。また、12月以降と試験期間は部活がオフとなるので勉強とスポーツを両立して行うことができます。看護学科は春と秋の東海医歯薬学生大会、医学科は加えて夏の西日本医科学生総合体育大会という大会があり、大会前には夜練などの外部コート練習によりさらなるレベルアップを図っています。

ソフトテニス部では半数が初心者ですが、基礎練習から

CLUB
Introductions サークル紹介

美術部

Fine Art

設立

1975年設立

部員数

23名

活動日程

自由



こんにちは、浜松医科大学美術部です。美術部は福利棟の部室を拠点に、各部員が自由に創作活動を行い、医大祭等で作品を発表しています。部活日は特に定めておらず、個々での作品制作が主ですが、機会があればデッサン会や美術館巡りを行う事もあります。各人で都合の良い時に活動できるため兼部も容易。もちろん経験不問なので、個性豊かな部員が揃っており、油絵・水彩から立体・デジタルまで、様々なジャンルの作品が生み出されています。

一番の発表機会は医大祭の展示です。折角の見せ場なので、きれいに整えた部室に作品を飾り、来場者に珈琲などを提供するアートカフェ形式で、じっくり作品をご覧頂けるよう工夫しています。



医学部医学科5年

朝生 智之

ゲーム練習まであるので、初心者でも楽しむことができます。私自身も今までソフトテニスの経験はなく、入部当初はフォームもわからない状態でしたが、先輩や経験者の同級生が丁寧に教えてくれたことで公式戦でも試合に勝てるようになりました。入部してから早く上達したかった私は、自主練を積極的に行っていましたが、その自主練にも快く付き合ってくれる部員ばかりです。先輩や後輩との仲も良く、アットホームな環境でとても楽しむことができます。また、2年に1回の合宿やBBQなどのイベントもたくさんあります。

ソフトテニスはダブルスの試合が主で、前衛後衛で組んで行うスポーツです。試合に勝ったときは、勝利による達成感だけではなく、仲間と喜びを共有し絆を深めることができます。初心者の方も経験者の方も、浜松医科大学のソフトテニス部に興味がある方はぜひテニスコートに足をお運びください。



また、医大祭のポスターとステージ背景の制作も美術部が担当しています。ステージは1年生がデザインし、実物の下書きや色塗りを全員で行います。共同作業で巨大な作品を完成させた時の達成感中はものものです。

他には、磐田で開催される静岡西部学生美術展に毎年出展しています。微力ながら地域の活性化に貢献でき、他所の作品から刺激を受け、プロの芸術家のコメントも得られる貴重な機会です。美術部の自由な作風は好評で、毎年誰かが何らかの賞を受賞して帰って来ます。

私は入学当初から美術部一筋で過ごしてきましたが(本学では兼部する人が多い為、専部は少ないのです)、優しい先輩方、頼もしい後輩に恵まれ、楽しく有意義な学生生活を送ってきたと思います。また、直近の第5回西部展では拙作が大賞を頂き、継続する事の大切さと、それが認められた時の喜びを痛感しました。

普段は皆が好きに動きつつも緩やかに繋がっており、いざとなれば協力して大仕事をこなす、独特の雰囲気の良い部活です。興味のある方は是非、部室や医大祭にお越し下さい。



留学生の紹介

研究テーマ：1細胞レベルでの 質量顕微鏡法の臨床応用

International Student Introduction

大学院医学系研究科(博士課程) 3年
解剖学講座(細胞生物学分野)

Md Amir Hossen

(エムディー アミール ホッセン)



出身国
バングラデシュ

研究テーマ、 研究の成果を教えてください

私は、日本での研究テーマとして、臨床検体の1細胞レベルでの質量顕微鏡法による脂質解析を選びました。フローサイトメトリー法を用いて多発性骨髄腫細胞と正常形質細胞を分離し、これらの解析を行ったところ、ホスファチジルコリン(16:0/20:4)の含有量に違いがあることが分かりました。この結果は、将来的に多発性骨髄腫における脂質関連治療の開発に有用であろうと考えられ、Analytical and Bioanalytical Chemistry誌に掲載されました。また、関連する他の研究成果も共著者として他誌に掲載されました。

日本に来るまでは 何を勉強していましたか？

私はバングラデシュのラージシャーヒ(Rajshahi)大学の蛋白質化学講座で修士課程を修了しました。そこで私は、抗がん活性を有する新規レクチンを植物から精製しました。この研究はProtein & Peptide Letters誌に掲載されました。

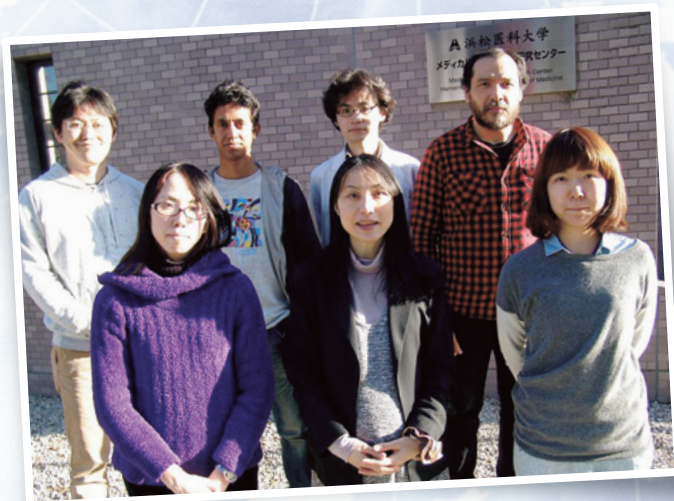
バングラデシュの教育に ついて教えてください。

バングラデシュは近年、非常に急速な経済的成長および人間開発を遂げて

おり、新興国とみなされています。しかしながら、研究施設の拡充はまだ十分ではありません。このため、バングラデシュの研究者は、国外の研究室に所属し、多くの研究成果を挙げています。

浜松医科大学での研究を 選んだ理由は？

私が現在所属している研究室は、質量顕微鏡法というユニークかつ先駆的な技術を開発し、これまでにない視点で生命体や疾患を解析しており、国際的にも高く評価されています。特に、1細胞での物質の種類と量を網羅的に解析する手法はいまだ世界的にほとんど存在しません。私はそのような技術を用いることで、複雑ながんの病態の理解を進めることができるのではないかと考え、留学先として選ばせていただきました。



日本での生活はどうか？

すべてが素晴らしい。日本の生活は安全です。最も好ましいのは、日本の食べ物はいつでも最高の品質であることです。ほかに、清潔なトイレやコインロッカーも評価に値します。私の経験では、ここでは大きな問題に直面したことはありません。ただ、言葉の問題と公共交通運賃が高いことには苦労しました。

夢を教えてください。

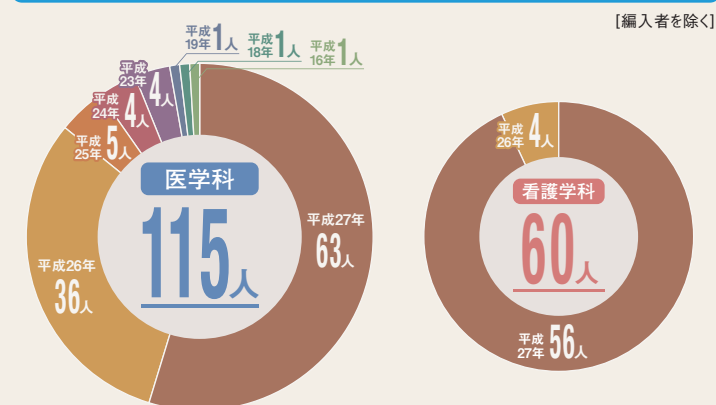
私はこれまでに適切なチャンスに恵まれなかったり、不要な批判や社会的差別のために、力を完全に発揮できていない才能のある人々をみてきました。科学の世界においても、多くの人々は一生懸命働いていますが、その仕事を楽しむことができていません。誰もが笑顔で高いモチベーションをもって自分の未来を構築することができる世界が私の夢です。

平成27年度 入学者選抜試験実施状況

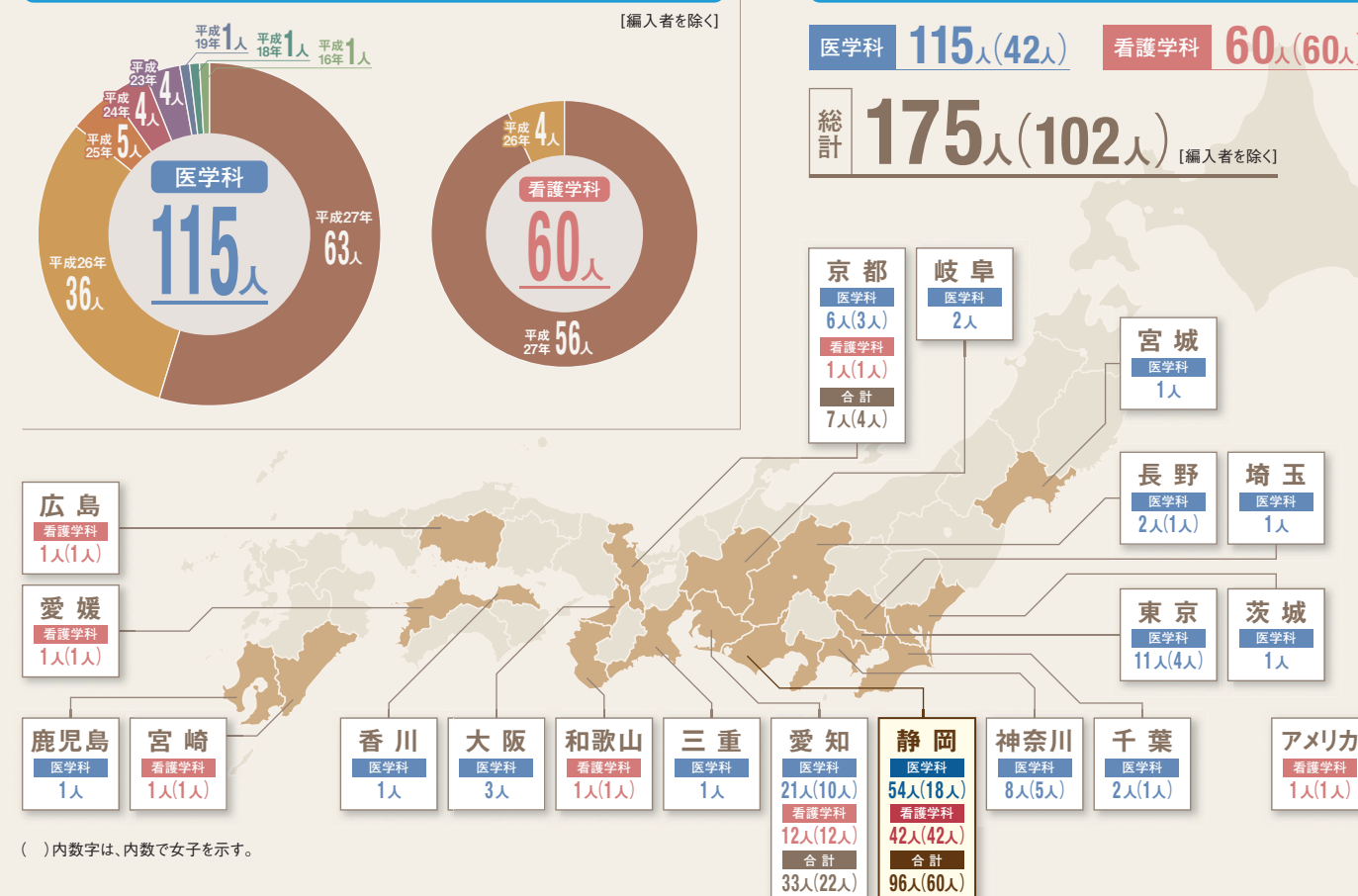
入学者選抜試験実施状況								
学科名	区分〔募集人員〕	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
医学科	前期日程〔75〕	472 (175)		402 (145)	75 (25)	4 (2)	0 (0)	71 (23)
	後期日程〔10〕	186 (71)	150 (56)	62 (19)	12 (3)	4 (0)	6 (2)	14 (5)
	推薦入試〔30〕	90 (42)		89 (41)	30 (14)	0 (0)	0 (0)	30 (14)
	帰国子女〔若干名〕	10 (3)		10 (3)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
	私費外国人〔若干名〕	3 (0)		1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合 計〔115〕	761 (291)		564 (208)	118 (42)	9 (2)	6 (2)	115 (42)
	2年次編入学〔5〕	124 (33)	39 (9)	26 (6)	5 (3)	1 (1)	1 (0)	5 (2)
看護学科	前期日程〔35〕	83 (78)		76 (71)	35 (35)	1 (1)	1 (1)	35 (35)
	推薦入試〔25〕	45 (43)		44 (43)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	24 (24)
	帰国子女〔若干名〕	2 (2)		2 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	社会人〔若干名〕	6 (6)		6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合 計〔60〕	136 (129)		128 (122)	61 (61)	2 (2)	1 (1)	60 (60)
	3年次編入学〔10〕	28 (27)		28 (27)	10 (9)	1 (1)	1 (1)	10 (9)

()内数字は、内数で女子を示す。

高等学校等卒業年別入学者状況



出身高等学校等所在都道府県別入学者状況

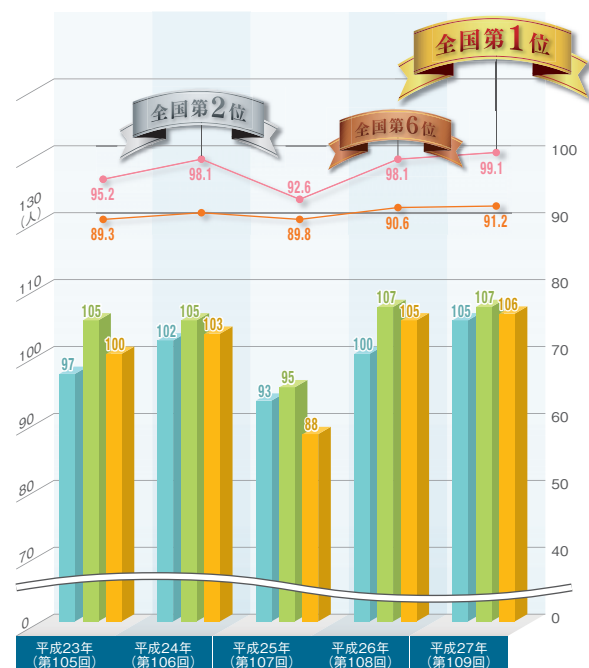


()内数字は、内数で女子を示す。

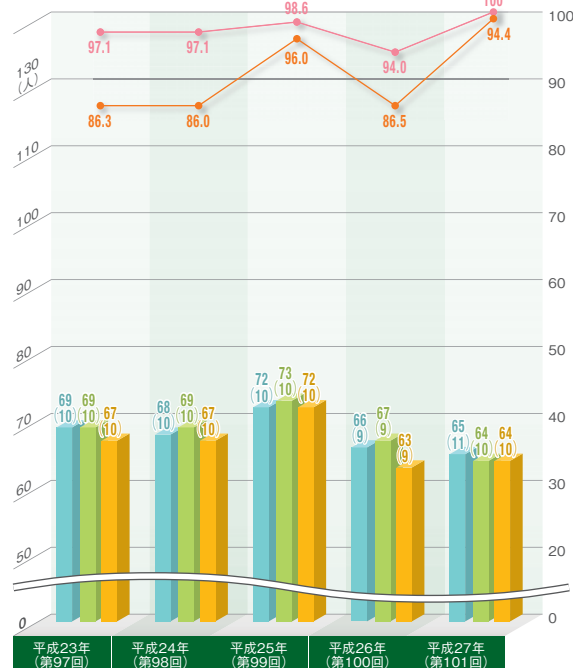
国家試験合格状況

第109回医師国家試験大学別合格状況

医師国家試験合格状況 [医学科卒業者]



保健師国家試験合格状況 [看護学科卒業者]



合格率 全国第1位

浜松医科大学

受験者数 107

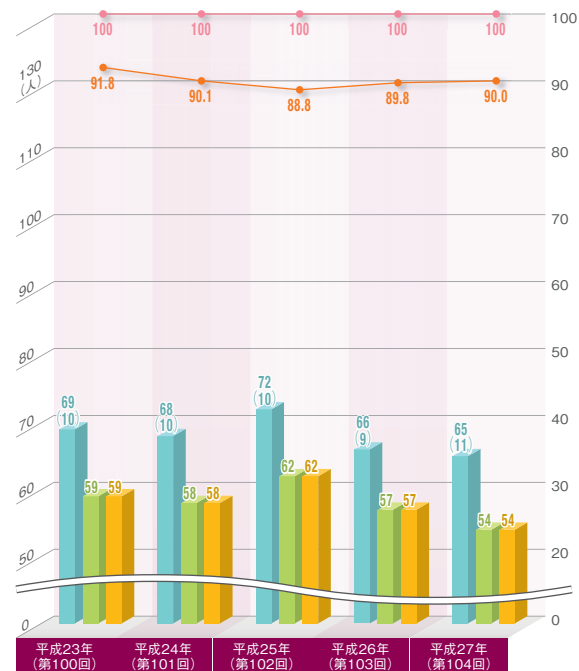
合格者数 106

合格率 99.1%

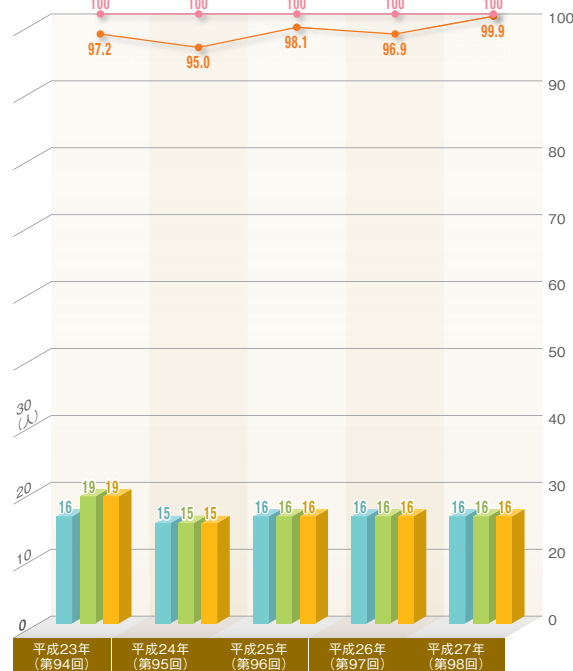
順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
1	自治医科大学	112	111	99.1%
1	順天堂大学医学部	111	110	99.1%
4	千葉大学医学部	103	102	99.0%
5	横浜市立大学医学部	85	83	97.6%
6	鳥取大学医学部	77	75	97.4%
7	京都府立医科大学	106	103	97.2%
7	兵庫医科大学	106	103	97.2%
9	金沢大学医学部	104	101	97.1%
9	東京慈恵会医科大学	104	101	97.1%
10	産業医科大学	101	98	97.0%
11	大阪市立大学医学部	85	82	96.5%
12	和歌山県立医科大学	83	80	96.4%
13	筑波大学医学専門学群	106	102	96.2%
14	名古屋市立大学医学部	90	86	95.6%

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
15	札幌医科大学	108	103	95.4%
16	東京医科歯科大学医学部	91	86	94.5%
16	山梨大学医学部	127	120	94.5%
18	昭和大学医学部	123	116	94.3%
19	福島県立医科大学	103	97	94.2%
20	慶應義塾大学医学部	117	110	94.0%
21	藤田保健衛生大学医学部	114	107	93.9%
22	島根大学医学部	96	90	93.8%
23	山形大学医学部	126	118	93.7%
24	秋田大学医学部	109	102	93.6%
25	旭川医科大学	108	101	93.5%
26	東北大学医学部	121	113	93.4%
26	福井大学医学部	122	114	93.4%
28	東京医科大学	105	98	93.3%

看護師国家試験合格状況 [看護学科卒業者]



助産師国家試験合格状況 [助産学専攻科修了者]



順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
29	京都大学医学部	118	110	93.2%
30	日本大学医学部	131	122	93.1%
31	北海道大学医学部	113	105	92.9%
32	滋賀医科大学	111	103	92.8%
33	弘前大学医学部	123	114	92.7%
34	日本医科大学	122	113	92.6%
35	名古屋大学医学部	119	110	92.4%
36	群馬大学医学部	126	116	92.1%
36	信州大学医学部	114	105	92.1%
38	大阪医科大学	125	115	92.0%
39	九州大学医学部	123	113	91.9%
40	三重大学医学部	122	112	91.8%
41	神戸大学医学部	121	111	91.7%
41	香川大学医学部	109	100	91.7%
43	琉球大学医学部	119	109	91.6%
43	聖マリアンナ医科大学	119	109	91.6%
45	岡山大学医学部	117	107	91.5%
45	佐賀大学医学部	106	97	91.5%

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
45	大分大学医学部	106	97	91.5%
48	防衛医科大学校	80	73	91.3%
48	岐阜大学医学部	103	94	91.3%
48	広島大学医学部	103	94	91.3%
51	富山大学医学部	122	111	91.0%
52	大阪大学医学部	110	100	90.9%
53	東邦大学医学部	109	99	90.8%
54	関西医科大学	116	105	90.5%
55	埼玉医科大学	115	103	89.6%
55	東京女子医科大学	115	103	89.6%
55	北里大学医学部	125	112	89.6%
58	愛媛大学医学部	113	101	89.4%
59	熊本大学医学部	103	92	89.3%
59	奈良県立医科大学	112	100	89.3%
61	徳島大学医学部	110	98	89.1%
62	岩手医科大学	117	104	88.9%
63	新潟大学医学部	116	103	88.8%
63	鹿児島大学医学部	125	111	88.8%

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
65	東京大学医学部	113	100	88.5%
65	福岡大学医学部	113	100	88.5%
67	金沢医科大学	110	97	88.2%
68	宮崎大学医学部	125	109	87.2%
69	杏林大学医学部	106	92	86.8%
90	帝京大学医学部	133	115	86.5%
91	長崎大学医学部	110	95	86.4%
91	東海大学医学部	110	95	86.4%
93	獨協医科大学	135	116	85.9%
94	愛知医科大学	113	97	85.8%
95	高知大学医学部	119	102	85.7%
96	川崎医科大学	126	106	84.1%
97	近畿大学医学部	124	104	83.9%
98	山口大学医学部	106	87	82.1%
99	久留米大学医学部	114	93	81.6%
100	認定及び予備試験	112	61	54.5%
総合計		9,057	8,258	91.2%

(既卒を含む)

平成26年度

卒業生・修了者進路状況

医学科				卒業生 105人			
就職先等	内 訳	人数 (人)		就職先等	内 訳	人数 (人)	
本学附属病院	浜松医科大学医学部附属病院	16	16		JA静岡厚生連 遠州病院	3	
国立大学 附属病院	東京大学医学部附属病院	2	8		聖隷三方原病院	2	
	東京医科歯科大学医学部附属病院	4			聖隷浜松病院	4	
	筑波大学附属病院	2			浜松赤十字病院	1	
					浜松労災病院	1	
公立大学病院	名古屋市立大学病院	1	4		静岡済生会総合病院	2	
	横浜市立大学附属市民総合医療センター	2			静岡赤十字病院	3	
	自治医科大学附属さいたま医療センター	1					
国立病院等	豊橋医療センター	1	3		名古屋記念病院	1	
	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	1			名城病院	2	
	国立病院機構千葉医療センター	1			名鉄病院	1	
公立病院	磐田市立総合病院	9	40	その他病院	総合大雄会病院	1	33
	浜松医療センター	4			社会医療法人宏潤会大同病院	1	
	静岡県立総合病院	12			医療法人医仁会武田総合病院	1	
	静岡市立静岡病院	2			京都第二赤十字病院	1	
	市立島田市民病院	1			一般財団法人甲南会 甲南病院	1	
	中東遠総合医療センター	1			社会福祉法人 三井記念病院	1	
	焼津市立総合病院	1			湘南東部総合病院	1	
	藤枝市立総合病院	1			東京都済生会中央病院	1	
	沼津市立病院	1			公益財団法人東京都保健医療公社東部地域病院	1	
	小牧市民病院	1			千葉労災病院	1	
	中部ろうさい病院	1			亀田総合病院	1	
	茅ヶ崎市立病院	2			KKR札幌医療センター	1	
	東京都立多摩総合医療センター	1			総合病院鹿児島生協病院	1	
	横浜州市立市民病院	1		未 定	1	1	
	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	1		合計 105			
	総合病院国保旭中央病院	1					

看護学科		卒業者 65人	
就職先等	内 訳	人数	(人)
本学附属病院	浜松医科大学医学部附属病院	32	32
国立大学 附属病院	東京医科歯科大学医学部附属病院	1	5
	名古屋大学医学部附属病院	3	
	愛媛大学医学部附属病院	1	
公立大学病院	横浜市立大学附属病院	1	2
	横浜市立大学附属市民総合医療センター	1	
私立大学病院	東京女子医科大学病院	2	2
国立病院	国立病院機構 天竜病院	1	1
公立病院	中東遠総合医療センター	1	7
	浜松医療センター	1	
	静岡市立静岡病院	2	
	榛原総合病院	1	
	中部ろうさい病院	1	
	兵庫県立尼崎総合医療センター	1	
その他病院	浜松赤十字病院	1	8
	聖隷三方原病院	2	
	上尾中央総合病院	1	
	愛育病院	1	
	社会福祉法人 福寿園	1	
	成田記念病院	1	
	社会福祉法人聖隷福祉事業団	1	
国・県・市・ 健診センター	浜松市保健師	1	1
企業	(株)ユニバンス	1	3
	(株)電通国際情報サービス	1	
	スズキ株式会社	1	
進学	浜松医科大学大学院医学系研究科 修士課程(看護学専攻)助産師養成コース	3	4
	奈良県立医科大学	1	
合計 65			

助産学専攻科		修了者 16人	
就職先等	内 訳	人数	(人)
公立大学病院	名古屋市立大学病院	1	1
私立大学病院	東京慈恵会医科大学附属病院	1	2
	昭和大学横浜市北部病院	1	
国立病院	国立成育医療研究センター	1	1
公立病院	浜松医療センター	2	6
	豊川市民病院	1	
	豊橋市民病院	1	
	長良医療センター	1	
	りんくう総合医療センター	1	
	その他病院	聖隷浜松病院	
名古屋第一赤十字病院	3		
千船病院	1		
		合計 16	



浜松医科大学
医学部附属病院勤務
看護学科17期生
(平成27年3月卒業)

高橋 愛



◀ 安心感をもっていただけるように笑顔心をかけています。

▼ 清潔感があり、ホッとする空間で患者さんをお迎えいたします。



やさしい診療を目指して

皆さん、こんにちは！私は2006年4月、聖隷浜松病院に入職し、初期研修医・耳鼻科後期研修医を経て、2013年7月から1年9か月磐田市立総合病院に勤務後、2015年8月8日に千葉県八千代市にWELLNESS耳鼻咽喉科（www.wellness-symphony.com）を開院致しました。病院実習で耳鼻科をまわった時に、耳鼻科は外科から内科的なことまで診療内容が幅広く興味深く、科の雰囲気もとてもよかったので、「耳鼻科医になりたい！」と思ってから、その気持ちは全く揺らぐことはありませんでした。

実際に耳鼻科医になると予想以上に楽しく充実した研修ができました。耳鼻科専門医を取得後、浜松医大耳鼻科医局にお世話になり、磐田市立総合病院に異動しました。卒後7年位までは先輩医師に何でも相談しながら助けていただき、それを実践していくのに一生懸命でしたが、病院を異動後は、自分主導で手術を行ったり、治療方針を決断することが増えていく中で、自分はこれからどのような医療がしたいのか考えるようになりました。

一度総合病院を離れ、都内でクリニック勤務をしながら「自分がやりたい医療について考えよう」と思っていた時に、兄から「一緒にクリニックを開業してみないか？」と提案がありました。自分一人では、経営は全くわかりませんし、開業しようとは少しも思い浮かばなかったと思います。しかし、

製薬会社を退職後に、食や健康の事業に取り組んでいる薬剤師の兄が、経営面は全部引き受けてと言ってくれ、「ご来院下さる方が、健康で楽しく生活するお手伝いがしたい！」というクリニックの理念が一致したため、思いきって開業を決意しました。

クリニックの場所の選定から内装、広告や事務的なことなどの経営に関わる全てのことは兄が進めてくれ、私は院内で使用する器材や医薬品を選ぶくらいでした。それでも初めてのことばかりなので準備はかなり大変でした。今まで、いかに自分が恵まれた環境の中で診療に集中できていたかを思い知りました。そして、開業準備を通して色々な職種の方々に大変お世話になり、その温かい応援のおかげで開院できたことに心から感謝しています。また、開業準備中に「どのような診療をしていきたいのか」についても、少しずつ見えてきました。「来院してよかったな」と思っていたかのように、やさしく応対し、自分の体を大切に、いたわってもらうようお願いしたいということです。

そして「目の前の患者さんに自分のベストを尽くす！」をモットーに、丁寧に診察していきたいです。また、千葉県八千代市という、今まで何のゆかりもない土地での開業で、お知り合いの先生もいない中でうまくやっていけるのが、一番の気がかりでした。しかしながら、近隣の総合病院耳鼻科や他科のクリニックの先生方に

ご挨拶に伺うと、どちらの先生方もとても快く開院を応援して下さい、心配が嘘のよう本当にありがたかったです。

私のような開業方法もありますので、「経営には自信がないけれど、自分の理想の医療を実現するために開業してみたいな！」と思っている先生方がいらっしゃいましたら、是非お気軽にご連絡ください。（k-kinoshita@wellness-symphony.com）何かお力になれることがあれば、是非ご協力させていただきたいと思います。

最後になりますが、私の東京行きを快諾して下さい、「いつでも戻っておいでね」と温かい言葉をかけて下さった峯田教授の懐の深さとやさしさに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。八千代の地で精一杯頑張ります！



▲赤ちゃんや小さいお子さまの診察も丁寧におこなっています。



卒業生は今

医学科27期生
（平成18年3月卒業）
木下 佳奈

▼ 職場集合写真（前列右から2番目が筆者）



産業保健師として働く私の思い

看護学科14期生
（平成24年3月卒業）
海道 梨菜

私は2012年3月に浜松医科大学を卒業し、静岡県湖西市のハイブリッド車用電池製造を主とするプライムアースEVエナジー株式会社へ入社しました。会社の「健康管理室」で産業保健師として働き始めて今年で4年目になります。

話は少し遡りますが、私は幼少期から高校2年まで看護師を目指していました。しかし人が健康を維持していくためには、治療や看護が大切であることは勿論の事、健康を損なう前の予防医療の必要性を強く感じたことから、保健師として社会に貢献していきたいという思いが芽生えました。それから保健師として働くことを目指し、浜松医科大学へ入学、卒業し、現在に至ります。

人は生まれた時から最期の時まで、行政保健、学校保健、産業保健などといった様々な分野で健康についてサポートを受けます。その中でも産業保健は、定年を60歳とした時のライフステージの中で一番長期間に関わる保健分野であります。私はこの点に重きを置き、社員にとって労働の場である会社での健康管理を基に、退職後の未来の健康まで見据えた健康のサポートができたという思いで日々業務に取り組んでいます。

主な業務内容は、各種健康診断の実施と事後措置、保健指導、メンタルヘルス、海外渡航者に対する渡航前後のサポート、禁煙イベント等の企画業務、

普通救急・応急処置講習等の労働衛生教育、傷病者対応、看護実習生の受入れ等、多岐に渡ります。特に保健指導は、定期健康診断後の保健指導、特定保健指導、禁煙指導等があり、産業保健師の業務の中でも大きなウエイトを占めると共に、社員一人ひとりと向き合いながら、生活習慣、健康状態の改善に取り組んでいく、予防医療といった意味でもとてもやりがいを感じることができる業務です。

イベントや労働衛生教育等では、できるだけわかりやすく知識を伝えたり、少しでも健康や教育の内容に関心を持てるようにと工夫をしながら実施するようにしています。また様々な部署の方と触れ合える貴重な機会であり、コミュニケーションをたくさんとるように心掛けています。日頃、製造ラインからなかなか抜けられない環境にある方もいるので、このような機会を大切にすることがとても重要です。

上記のような様々な業務に日々一生懸命取り組んでいます。私の中で一番大切にしていることは、やはり一人でも多くの社員の方の顔と名前を覚え、どんな時も笑顔で接することです。人が労働するにあたり、健康な心と身体はとても大切な資本となります。一人ひとりが充実した毎日を送れるような健康のサポートをしていきたいと考えています。その結果、会社の生産性を向上し、私自身、社員の一人として会社や社会に貢献できたと思います。



▲看護実習生に産業保健師の活動内容について講義をしている様子。



▲禁煙イベント実施時の展示の様子。

今後は、さらに社員一人ひとりが自身の健康に関心を持ち、心身ともに健康で充実した会社生活、私生活を送ることができるような健康支援活動を行なっていきたいです。また、社員にとっていつでも何でも気軽に相談できるような身近な存在となり、相談して良かった、また相談したいと思われるような社員に寄り添える保健師を目指します。

最後になりましたが、今回浜松医科大学の卒業生として、このような貴重な機会を与えていただきましたことに深く感謝いたします。また最後まで読んでいただき、誠にありがとうございました。

平成27年6月5日(金)午後3時より、本学臨床講義棟大講義室にて、浜松医科大学開学記念日における記念行事が行われ、東京大学大学院医学系研究科 機能生物学専攻 システムズ薬理学教授 上田泰己氏に特別講演『全身・全脳透明化の先に見えてくるもの:生命の「時間」の理解に向けて』をお願いしました。

講演要旨

私達の体内には自然が創った時計がある。この概日時計は、約24時間の周期でリズムをうち、光や温度の変化でリセットされ、体内の様々なイベントのタイミングを調節する。朝に目が覚め、夜に眠たくなるのも各臓器に時計細胞が存在するからである。体中に散在する時計細胞は、全体として統一的な時間を刻んでいる。講演では、概日時計の解明の現状について紹介するとともに、細胞から少量多品種で個体を創り出す技術や、器官のまるごとイメージングを可能にする透明化技術を紹介し、これらを用いた個体レベルのシステム生物学の実現に向けた試みを議論した。



[参考文献] Nature 418: 534-9 (2002), PNAS : 101:11227-32 (2004), Nature Genetics 37:187-92 (2005) Nature Genetics, 38:312-9 (2006), Nat Cell Biol. 9:1327-34 (2007), PNAS 05, 14946-51 (2008), Nat Cell Biol. 10, 1154-63 (2008), PNAS 106, 9890-5 (2009), PNAS 106, 15744-9 (2009), Curr Biol.20(24):2199-206. (2010), Cell 144(2):268-81 (2011), Nature Rev. Genet. 12(6):407-16 (2011), Cell Reports 2(4):938-50 (2012), Genome Biol. 14(4):R31 (2013), Cell, 157(3): 726-39,

浜松医科大学建学の理念

第1に優れた臨床医と独創性に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

浜松医科大学の目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

編集後記

本号22ページをご覧ください。今春の医師国家試験合格率は本学が全国第1位でした。また今年の西日本医科学学生総合体育大会(西医体)では本学が総合優勝を果たしました。浜医生の不断の努力の賜物でしょう。今回のニュースレターでは新たな試みとして産学官座談会の様子を掲載しました。この地域の産業と本学の連携の重要性を再認識でき、浜松医大の今後に関して示唆に富む内容です。その他、興味ある内容が盛りだくさんです。これからも「地域に根ざして世界にはばたく」浜松医大の今の様子をお伝えしていきます。

ニュースレター編集委員 T.N.

原稿募集

小誌をご覧になられた感想はいかがでしたでしょうか。読後のご感想やご意見をお寄せください。また、各欄(「研究最前線」「海の向こうで」「大学ニュース」「寄稿」「卒業生は今」など)への投稿や本学に関連する写真を、随時、募集しています。職員や学生だけでなく、広く関係者の方々からのご提案をお待ちしております。読面づくりに、ぜひご参加ください。
広報室 koho@hama-med.ac.jp

編集・発行

浜松医科大学ニュースレター編集部会

発行日

平成27年10月1日

お問い合わせ

国立大学法人浜松医科大学 広報室
〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
TEL.053-435-2111(代表) <http://www.hama-med.ac.jp/>